

ウェストミンスター小教理問答 53 問－56 問「第三戒」

道徳律法(神が人に求められる道徳)は、十戒の中に要約的に含まれています(41問)。十戒の第三戒は、主(ヤーウェ)の御名をみだりに唱える事の禁止です。

御名への尊敬

- 1、神様は、神の民イスラエルにご自分の名を知らせられました。それは、「主」(ヘブル語で「ヤーウェ」)という名です。
- 2、名を知らせるといふ事は、ご自分を他の神々と区別し、ご自分がどのような神様であられるかを知らせるために必要な事でした。神様は、ご自分の名を知らせる事で、ご自分がどんな方であるかを示して、イスラエルの人々との結びつき(交わり)を深めようとなされたのです。
- 3、しかし、旧約聖書の時代に、神の名を誤って用いる危険がありました。
 - ①まじないに神の名を用いる事が周辺世界では行われていました。神の名を唱える事で、神をコントロールして、名を唱える者の意志に従わせようとしたのです。
 - ②裁判の席や日常生活での誓いにおいて、神の名が唱えられる場合がありましたが、それが偽誓として行われる危険がありました。
 - ③現代と同じく、神の名を不謹慎な冗談やおしゃべりに用いる危険もあったと思われます。
- 4、「主の名をみだりに唱えてはならない」とは、そのような誤った用い方を避ける事を求めています。神様は、私たちとの交わりを深めるために、ご自分の名を知らせてくださったのですから、私たちは、神様との交わりにふさわしく、敬虔な思いを持って、神様の名を口にすべきなのです。
- 5、小教理問答は、この原則を拡大して、神様がご自分を知らせて下さるすべての事柄(御名、属性、規定、御言葉、御業)を敬虔な思いで用いる事を教えています。これは聖書全体からは正しい教えです。神様が御自分を知らせていらっしゃる時、私たちは聖なる神様の語り掛けを受けています。それにふさわしい敬虔な思いで、知らされた神様を思うべきです。

第三戒に加えられている理由

「第三戒に加えられている理由」(問 56)は、「主は御名をみだりに唱える者を罰しないでは置かないであろう」の解説です。狭い意味でも広い意味でも、御名が敬虔な思いで唱えられているか、そうでないかは、人には分からない場合があります。偽誓の場合でもそうです。しかし、御名を唱える者は特に、心の内を見抜かれる神様を恐れて敬虔な思いを持つべきなのです。